

~ Keyword ~

Malaria, traveler, clinical findings, pre-erythrocytic parasitic stage, vaccine, chemoprophylaxis, prevention

使用したデータベース : DynaMed 検索日 : 2013年4月11日

Case(熱研内科 - 熱帯病関連トピック)

マラリアに関する情報で、DynaMedではどのような情報が得られるか、いくつかの検索例を紹介します。

1. マラリア流行地旅行者によく見られる臨床所見とマラリアの陽性尤度比
2. 赤血球への寄生前状態(pre-erythrocytic parasitic stage)で有効な予防接種と予防効果について
3. 妊婦に対するマラリアの化学的予防法(chemoprophylaxis)について

Search

まず、DynaMedのトップページから、“malaria”で検索してみましょう。



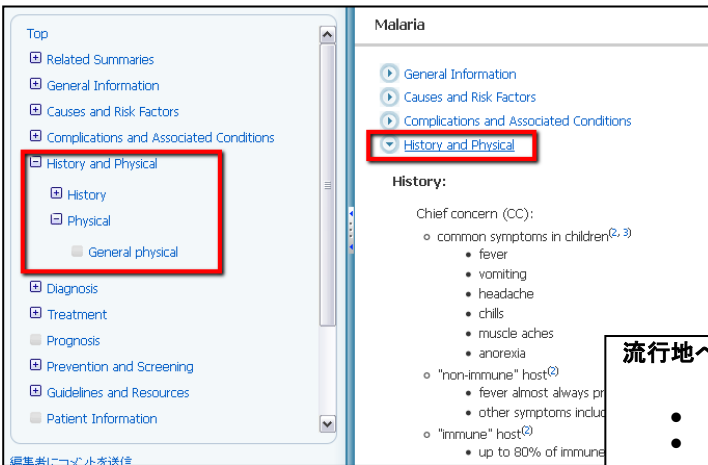
DynaMedには、およそ3500のトピックが収録されており、主に疾患や薬剤などがトピック作成の基準です。その他に、特定の治療法や診断法、予防法などをテーマにまとめたトピックも必要に応じて作成されています。

“malaria”で検索した場合、
疾患トピック：マラリア
関連トピック：旅行者のマラリア予防、蚊刺抑制
薬剤トピック：抗マラリア薬

などのトピックが検索できます。

今回は、“Malaria”トピックを中心に紹介していきます。

1. マラリア流行地旅行者に良く見られる臨床所見とマラリアの陽性尤度比



病歴や身体所見に関する情報は、“History & physical”項目にまとめられています。

左図のように、病歴（主訴、現病歴、既往歴など）や身体所見に関する情報が、箇条書きで分かりやすくまとめられています。

身体所見に関する情報に、下記のような記載がありました。

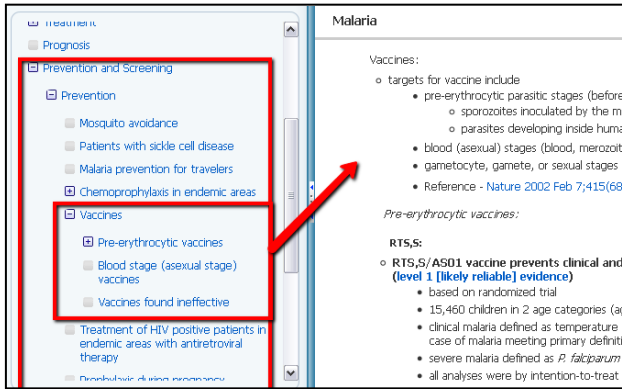
流行地への旅行者に見られる臨床所見はマラリア予測に役立つ

- システマティックレビュー文献より
- 流行地旅行後のマラリア診断の可能性増加因子
 - 発熱 (LR 5.1, 95% CI 4.9–5.3)
 - 脾腫大 (summary LR, 6.5, 95% CI 3.9–11)
 - 高ビリルリン血症 (LR 7.3, 95% CI 5.5–9.6)
 - 血小板減少症 (summary LR 5.6; 95% CI 4.1–7.5)
- 参考文献 - [JAMA 2010 Nov 10;304\(18\):2048](#)

* LR : Likelihood Ratio (尤度比)
 * 一部情報割愛しています。

これらの症状は、渡航者帰国後の外来においてマラリア感染を予測する際に役立つ特徴的な所見で、マラリアを予測する”尤もらしさ(尤度比)”も同時に確認する事が出来ます。

2. 赤血球への寄生前状態(Pre-erythrocytic parasitic stage)で有効な予防接種と予防効果について



予防に関する情報は、“Prevention & Screening”項目に必要な情報がまとめられています。

目次項目の「+」マークをクリックすると、小項目が表示されます。“Prevention”→“Vaccines”と辿っていくと、素早く予防接種に関する情報が参照できます。

RTS,S/AS01 ワクチンの予防効果を示すエビデンスとして、信頼性の高い情報を参照する事が出来ます。New England Journal of Medicine の二つの文献の要約が、下記のようにまとめられています。

RTS,S/AS01 ワクチンは生後5-17カ月の小児のマラリア、重症マラリアを予防し、生後6-12週間の小児では中程度以上の予防効果が認められる (level 1 [likely reliable] evidence)

- ランダム化比較試験論文より
- 15,460 人の小児が対象、ワクチン接種/非接種にランダム割り付け
- マラリアの定義(割愛)
- 重症マラリアの定義(割愛)
- 生後5-17カ月の小児の場合 (RTS,S/AS01 ワクチン vs. 対象群)
 - マラリアの発症 - 0.318 vs. 0.554 per person-year (p < 0.001)
 - 重症マラリアの発症 - 2% vs. 3.7% (p < 0.001)
 - 参考文献 - [N Engl J Med 2011 Nov 17;365\(20\):1863](#)
- 生後6-12週間の小児の場合 (RTS,S/AS01 ワクチン vs. 対象群)
 - マラリアの発症 - 0.31 vs. 0.4 per person-year (vaccine efficacy 30.1%, p < 0.001)
 - 重症マラリアの発症 - 1.8% vs. 2.4% (p = 0.09)
 - 参考文献 - [N Engl J Med 2012 Dec 13;367\(24\):2284](#)

Level 1 evidence は、臨床試験のデザイン・フォローアップが優れており疫学的な信頼性の高い文献に与えられる信頼性レベルです。

3. 妊婦に対するマラリアの化学的予防法について

ワクチンと同様に、妊婦に対する化学的予防法(Chemoprophylaxis)について確認してみましょう。

- chemoprophylaxis (化学的予防)
 - WHO 推奨事項: 妊娠初期からの2回以上のスルファドキシシン・ピリメタミン合剤投与による"妊婦への断続的な予防的治療 (IPTp)" [WHO 2010 Policy](#)
 - マラリア流行地において、妊婦に対するルーチンでの化学的予防は出産歴の少ない女性の重度の出産前貧血症・低出生体重・周産期死亡率を減少させる (level 2 [mid-level] evidence)
 - Cochrane システマティックレビュー文献より (16の文献、12,638患者対象)
 - 全ての妊婦において
 - 寄生虫血症(parasitemia)の減少 (risk ratio [RR] 0.53, 95% CI 0.33 to 0.86)
 - 胎盤性マラリア(placental malaria)の減少 (RR 0.34, 95% CI 0.26 to 0.45)
 - 週産期死亡率は変化なし
 - 出産経験 0-1 人の妊婦において
 - 重度の出産前貧血症(antenatal anemia)の減少 (RR 0.62, 95% CI 0.5 to 0.78)
 - 寄生虫血症(parasitemia)の減少 (RR 0.27, 95% CI 0.17 to 0.44)
 - 週産期死亡(perinatal mortality)の減少 (RR 0.73, 95% CI 0.53 to 0.99)
 - 低出生体重(low birth weight)の減少 (6 trials with 2,350 patients)
 - 出生時平均体重の増加 (weighted mean difference 127 g)
 - 参考文献 - systematic review last updated 2006 Aug 20 ([2006 Issue 3:CD000169](#))
- ※ 一部情報を割愛して翻訳しています。

断続的な化学的予防に関する WHO のガイドラインや、裏付けとなるシステマティックレビューなどの文献 (エビデンス) を同時に確認する事が出来ました。化学的予防法の有効性をサポートする文献は、この他にもいくつか DynaMed 内で紹介されています。

(作成 : 2013年4月11日)